

# 「学習意欲を高めるためのICT活用の実践」

## 松伏町教育委員会



### 1 本町の学力向上の取組と ICT の現状

松伏町は『松伏町学力向上プラン』を作成し、「学力向上6つの視点」を掲げ取り組んでいる。6つの視点の一つ一つが充実することで、全ての取組がさらに生かされ、松伏の子供たちの学力向上につながると考える。その中でも今年度は、①「松伏授業プラン」による授業改善②「個に応じた指導の充実」③「家庭学習の習慣化」を重点に、5校で取り組んでいる。

松伏町ではGICAスクール構想の実現を目指して、一人一台端末（Googlechrome）をはじめ、ネット環境や教室環境の整備を進めてきた。松伏町では、「まずは学校での積極的实践」をモットーに各校での取組を進めている。



### 2 ICT を活用した授業実践

**つかむ**

「今日は何を学ぶのかな」から「解いてみたい!」「話し合ってみよう」「書いてみたい」など意欲を高めるための大事な時間。ICTを活用し、視覚的に子供たちの好奇心を高めたり、抽象的な課題をわかりやすくするために、動画や写真、図などを提示している。

**考える**

じっくりと個々で課題解決に取り組むために、デジタル教科書やネット上の情報を活用できるようになった。また、個々の学びの状態を教師や学級で共有することにより、「わからないまま学びが止まる」空白の時間を減らすことができると考え、ICTを活用した様々な手立てが講じられ始めている。

**深める**

**ロイノート**  
Google classroom

タブレットを使い、意見を交換したり、実際に話し合ったりしながら、自分の考えを深める時間を大切にしている。それぞれの意見をホワイトボードやタブレット等を活用することにより、個々のタイミングで「比べる」作業がそれぞれのタイミングで行うことができ、「隙間の時間」を減らすことができる。「もっと知りたい」「ほかの考え方を知りたい」思いに対応することができる。

**振り返る**

**ロイノート**  
適応問題ができるアプリ  
カメラ 等

タブレットに直接打ち込んだり、紙に書いたものを、カメラで写して取り入れたり、個に応じた選択ができることもICTの強みです!

松伏町では「振り返り」の時間を主体的学びの視点からも、大切にしている。タブレット上に振り返りを記入することで、積み上げができ、いつでも見直すことができる。また、友達の振り返りの仕方や考え方も知ることができ、一人一人の「見方・考え方」を広げることができる。

### 3 ICT を活用した教育活動



書写アドバイス付きのお手本



朝会・児童会等のオンライン



分散登校中の双方向朝の会

#### 【その他の取組例】

- 音読の宿題の録画 ○英語スピーチの録画 ○教育相談室での授業参加（双方向システム）
- 適応指導教室でのタブレット学習環境の整備 ○オンラインでの研究会（松伏町5校の参加）
- 特別支援学級のオンライン交流会 ○グループ新聞の作成 ○学校や町の紹介動画の作成 等

### 4 ICT 推進委員会の取組

メンバー（16名程）

管理職・教務主任・情報担当・教育委員会・総務担当

☆年間5回実施。

- ① 授業実践事例集作成チーム
- ② 松伏町 ICT 活用マニュアル (Ver.2) の二つのチームに分かれて活動。



#### 【授業実践事例集】

- ・各学校における様々な取組実践の動画を編集。
- ・動画と解説を、松伏町教職員ポータルにアップし、教職員がいつでも見られるようにする。



#### 【松伏町 ICT 活用マニュアル】

- ・各学校で実践し、児童生徒や保護者等、共通認識が必要だと感じたものをまとめ、活用する。
- ・入学式や懇談会等で保護者への啓発活動としても活用する。



推進委員会のメンバーを中心に、学校での研修会の実施や、有志による勉強会の開催など、松伏町教職員の学びの場を作っている。教職員の ICT 活用能力の向上が高まり、日々の実践につながっている。



### 5 今後の取り組みについて

Society 5.0 時代に生きる子供たちにとって、PC 端末は鉛筆やノートと並ぶマストアイテムになる。1人1台端末環境は、もはや令和の時代における学校の「スタンダード」になり、これからの学校教育は劇的に変わっていく。ICT の導入は、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない、個別最適化された学びや創造性を育む学びにも寄与するものであり、特別な支援が必要な子供たちの可能性も大きく広げ、松伏町の重点課題である「学力向上」「不登校児童生徒の削減」にもつながると確信している。今年度、松伏町教職員が一体となり、積極的に取り組んでいただいたおかげで、大きな一歩を踏み出すことができた。今後以下のことについて、更に研究を進めていく。

- 1 情報モラル・ネットリテラシー教育の充実
- 2 特別支援が必要な児童生徒のための合理的配慮のための ICT 活用の推進
- 3 ICT を活用した授業改善や家庭学習の実践の積み上げ
- 4 子供たちの主体的な学びが広がるよう、「学びの選択」ができる柔軟な授業の実践
- 5 タブレット学習と教科書やノート学習のそれぞれの良さ、効果的な活用の仕方の研修の推進

